

NEW
ネットワーク **しまだ**
 Network Shimada

SHIMADA

50th Anniversary
 歩み続けて50年
 そして未来へ

発行者 島田療育センター
 院長 木実谷 哲史

「東日本大震災」におきましては、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。被災地におきましては、一日も早く安心した生活に戻れますよう、皆様のご無事を心よりお祈り申し上げます。

平成22年度公開シンポジウムが開催されました

副院長 有本 潔

平成 22 年度の公開シンポジウムを、2 月 6 日(日)に開催いたしました。東京都地域の拠点機能支援事業の助成により無料で行い参加者は 65 名でした。

福祉に関する政治や法律の状況が流動的であり、なかなか見通しが持てませんが、現実的な支援の面から考えてみよう、また 8 年前にも IT をテーマとしており、技術の進歩もあるので、改めて取り上げてみようと考えて、テーマを「障害に対するコミュニケーション支援—AT (支援技術) の応用」としました。(AT : Assistive Technology の略)

基調講演は東京大学先端科学技術研究センターの中邑賢龍教授にお願いしました。講演は技術の側面にとどまらず、まずコミュニケーションのために、障害のある人を理解することが必要と話が始まりました。障害観の変化により、機能障害 (Impairment) がなくても社会参加に困難を持つ人、一時的に困難を抱える人など、誰もがバリアフリーの恩恵を享受する社会が望まれていること、訓練・教育でできるようにするのはなく、できないことを前提にして自己実現を図ることなどが語られました。直接的なコミュニケーション手段だけでなく、コミュニケーションの話題を作ること (お互いに共通して感じ取れること)、操作して成功する体験などにスイッチを使うことが意欲を引き出すことにもつながることを述べられました、また、テクノロジーが障害観を変えることを、義足をつけたランナーがオリンピックに出ようとした例を出して説明されました。時々、「みなさんの中で、自分には障害がないと思っている人」とか、「言葉のわか

中邑 賢龍先生



らない利用者をトイレにつれていくにはどうするか」など、ドキッとする質問を投げかけられながら、参加者は先生の話に引き寄せられ、おおいに考えさせられる 1 時間でした。

後半は主に地域で活動されているシンポジストの方々のお話を伺いました。多摩桜の丘学園の加藤先生は、訪問教育と学校の活動を結びつける試みなど、特別支援学校での取り組みを紹介されました。情報ボランティアの会八王子代表の中島様からは、ゲームパッドや、滑らかな音声読み上げ装置の紹介があり、自分で行うことは少なくともニーズをとらえて地域にいる他の人の知恵を借りるなどの連携の意義を強調されました。3 席目は、当院でも利用の広まっている「脳機能バランサー」の可能性について、レデックス社長の五藤博義様より、ソフトの内容と、コミュニケーションを促進する補助道具としての利用について学校等での取り組みを紹介されました。最後に「ピコピコルームのあゆみ」として、当院ピコピコルーム代表の岸野 PT から、ピコピコルームの概要、テクノエイド外来、ピコケアといった活動を紹介し、中邑先生からも良い評価を受けました。

具体的な技術も重要ですが、現場から福祉や障害を考えるととてもよい機会になりました。



シンポジストの方々



H22年度 地域療育等支援事業 報告

地域連携情報室 松野 彩子 林 貴美子

東京都から平成 9 年度より委託を受けている事業です。在宅心身障害児(者)の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育指導、相談等が受けられることを目的としています。平成 22 年度の実施状況をご報告します。

【外来療育等支援事業～療育相談～】

障害を持つかたご本人あるいはご家族のかたのご相談に個別に応じる事業です。今年度の実施は 4 件で、主に発達上のご相談に、医師、心理、PT などが応じました。

【施設支援一般指導事業】

地域で暮らす障害のあるかたを受け入れている通所施設の、職員のかたのご相談に応じる事業です。通所施設での対応の工夫、配慮などを助言させていただいています。

全体としては表①のとおりで、延べ 145 回を 122 箇所の施設に実施、前年度より 13 回分の増加となりました。利用された施設の実数も、前年度の 94 施設を大幅に上回っています。施設種別では、例年どおり保育園・幼稚園といった就学前機関の利用が最も多くなっています。

月ごとの件数を昨年度と比較したものが表②です。今年度の特徴は、春休みと夏休みにもあまり減少することがなかったという点です。3 月は地震の影響で翌月以降

表① 全体の実施数 延…延べ実施件数 実…実施施設数

	多摩市		八王子市		町田市		稲城市		日野市		その他		合計	
	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実
特別支援学校	0	0	3	3	1	1	0	0	0	0	2	2	6	6
保育園	20	18	26	21	6	6	4	4	5	4	2	1	63	54
幼稚園	11	7	12	9	1	1	0	0	2	2	0	0	26	19
小学校	12	9	23	20	2	2	4	4	6	5	1	1	48	41
中学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
障害児(者)機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
その他(学童舎)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	43	34	64	53	10	10	8	8	14	12	6	5	145	122

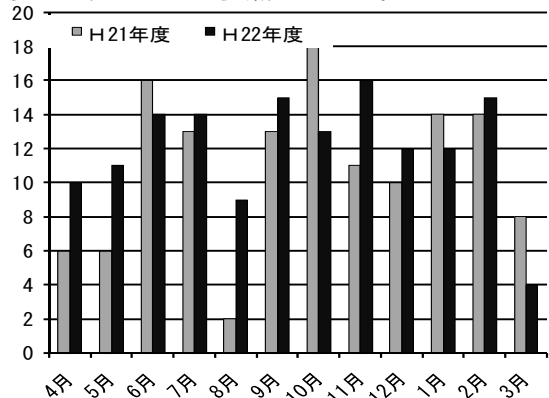
に延期させていただいたために少なくなりました。

1 施設あたりの年間利用回数は表③に示すとおり割合で、殆どの施設で 1 回の利用にとどめていただいているのが現状です。職種別に関わった数は表④のとおりで、心理職が対応しているものが増えてきています。

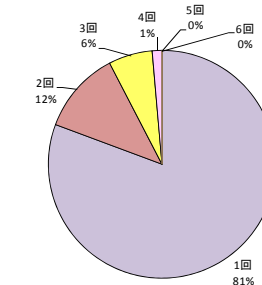
【訪問療育等指導事業】

家庭の場での訓練方法、姿勢保持、日常生活介助の工夫などのご相談に、専門職が家庭を訪問して応じる事業で、1 件を実施しました。

本事業のご利用については、本誌第 4 面にご案内がございますので、どうぞご参照ください。



表③ 1 施設あたりの年間利用回数の割合



表④ 職種別に関わった延べ回数

医師	16
Ns	5
PT	10
OT	46
ST	55
心理	84
Co	137
その他	4

Ns…看護師
PT…理学療法士
OT…作業療法士
ST…言語聴覚士
心理…心理判定員
Co…コーディネーター
その他…介護福祉士等



お友達が遊んでいる玩具を貸してほしいのに、なかなか言い出すことができません。どうしたらよいでしょうか。



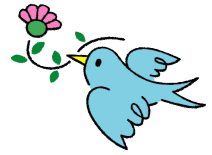
お友だちの遊んでいる玩具を、黙って見つめているお子さんがいます。この背景に、どのように伝えたら良いかわからない場合、自分の気持ちを伝えることが苦手な場合があると思います。

まず、玩具を貸してほしいことを、お友だちにどのように伝えたら良いかわからない場合についてです。大人は、お子さんの気持ちを汲み取って、どのように言ったら良いのかを教えることが大切です。この場合には、「貸して」って言ってごらん」などと適切な言い方を教えてあげましょう。その後は、「何て言うんだっけ?」と尋ねるなど、徐々に手掛かりを減らしていき、確実に言えるようにサポートしてあげましょう。そして、お子さんがお友だちに上手に言えた時には、忘れずに褒めてあげることも大事です。

次に、お友だちへの伝え方がわかっても、自分の気持ちを伝えることが苦手な場合についてです。この場合には、最初は大人と一緒に言ってみると良いと思います。また、大人がお友だちの役になり、「貸して」と言う練習をすることも一つの方法です。大人と練習して、スムーズに言えるようになったら、実際にお友だちに言う機会を設けて、大人が手伝いながら言えるようになると良いと思います。大人が手伝いながらも、お子さんが言えた場合には、言えたことを大いに褒めてあげましょう。自信がないためにお友だちに気持ちを伝えることが苦手なお子さんも、大人が手伝いながら「言えた!」という成功体験を積み重ねることが大切です。(心理判定員 中村 ひろみ)

かるがも

～身体が不自由なお子さんをお持ちのご家族交流会～



理学療法士 杉沢 英浩

3月11日(金)午前中当センター厚生棟にてPT科主催による障害を持つ就学前のお子さんを育てる保護者様を対象とした保護者交流会「かるがも」が開催されました。2回目となる今回は児童精神科医の井上先生にお越し頂きお話を伺いました。

先生から「あなたが楽しいと感じる一時は？」という問い掛けがありました。保護者様の楽しい一時は友人とのおしゃべり、カラオケ、スキューバ、旅行など様々です。皆様、笑顔で語っていたのが印象的でした。しかし実際は、その楽しい時間を今は設けることが出来ず、過去形として話されている保護者様が殆どでした。お話の後、相談が幾つかありました。相談は「子育ての悩み」「人間関係の悩み」などでした。

悩みは人間として生きていく上で誰にでも生ずるものです。解決法は分かっているでもそれを実行するには相應の精神力が必要になると思います。人は誰しも弱さがあり、それが前面に出てしまうと冷静にものが判断出来なくなるのではないのでしょうか？そして適切な行動が出来なくなってしまう、解決法も手が届かないものになってしまうような気がします。

「弱さ」は「怖さ」に似ています。自身で解決出来ない状況に陥った際、今回のような会に参加することで「弱さ」が「強さ」へと変わって行くきっかけになるかも知れないと会の様子を見て感じました。

PT 訓練の時間中にお子さんや保護者様から自身の悩みを相談されることがあります。あるお子さんは



「悩みを相談する」こともPT 訓練に通う目的の一つであると話していました。子どもには親に言えない悩みもあるものです。また保護者様からも悩み等を相談されることがあります。精神的なケアが必要と感じた際は今回のような精神科医との連携を図っていくのも一つの手段であると感じました。

「かるがも」は保護者同士の交流を深める目的もあります。前回の会で保護者同士が知り合いになり「お食事会」などを開いて楽しい時間を過ごせるようになったと、ある保護者様よりお聞きました。先生は「自身の楽しい時間」は「強さ」であると先生は話されていました。心にゆとりが出来るのかも知れません。今回の会が「ゆとり」を持つきっかけにもなればと感じています。



Q

体育があった日に体操服を学校から持って帰るのを忘れてしまいます。家を出る前に何度も体操服を忘れないよう声をかけていますが、あまり効果がありません。



忘れ物の対応は、その物を“扱う場所”・“扱うタイミング”でお子さんが思い出せるようなサポートが何より重要になります。ですから、例えば体操服袋に『体操服袋はランドセルに入れよう』などと書いたタグやカードをつけるなど、その場でお子さんが気づけるような工夫が有効です。また、学校の帰り支度の時に体操服を持ち帰ることを思い出せるよう、帰り支度をする際に必ず目にする物の目立つ部分（ランドセルのふたの裏、連絡帳の表紙など）に“持ち帰りリスト”を貼り、体操服など忘れず持ち帰る物を2～3個リストアップするといった方法もあります。お子さんの年齢や文字の習得度によって、カードやリストに写真やイラストなども併用するとより効果的でしょう。

こうしたご家庭での対応だけで難しい場合は、やり方が定着するまでは担任の先生に協力をお願いすることも重要です。帰りの会で「お家に持って帰る物はいくつあるかな？」といった声かけをしてもらうなど、持ち物をチェックする機会を作ってもらうことで持ち物リストをより活用しやすくなります。

また、持ち物管理は日々の積み重ねですので“体操服を持って帰ったらカードにスタンプがもらえ、スタンプが一定量貯まったら好きなアニメのDVDが見られる”などといったお楽しみを設定すると、より楽しくお子さん自ら積極的に取り組むことができます。こうした対応は、体操服以外の持ち物でも基本的には共通です。

あまり忘れ物が続くとお子さんの学習意欲や学校場面での自己肯定感などに影響を及ぼす場合もあります。失敗が積み重ならないうちのサポートが重要です。(心理判定員 増富 真耶)

島田療育センター50周年記念出版

愛することからはじめようー小林提樹と島田療育園の歩みー

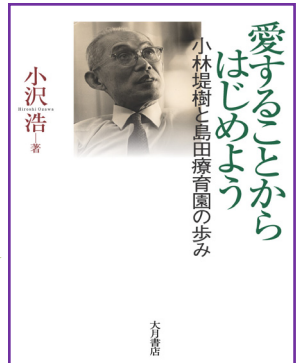
多摩市に位置する島田療育センター（旧：島田療育園）は、日本で一番古い重症心身障害児施設である。今年で50周年を迎える。設立まで、そして設立後の50年間、今に至るまでの道程（みちのり）は、簡単なものではなかった。

重症心身障害児という言葉は、日本独自のものであり、世界に類をみない。これは、小林提樹先生をはじめとする先人たちの血と汗と涙の結晶である。島田療育園の歴史、それはすなわち、昭和という混乱の時代の中で、新たな道を切り開いた重症心身障害児の歴史である。設立に奔走した島田夫妻、園長の小林提樹、家族や重症心身障害児と共に歩んだ人々の歴史である。

現在の障害児をとりまく環境は、一見整備されたようにも思えるが、根本は、昔と変わっていない。障害をもった子どもを抱えた親の苦悩や、介護負担が大きいために、介護に疲れ、子どもや親を殺したり、心中を図ったりする例は今もみられている。

島田療育センターはちおうじ 所長 小沢 浩
島田療育園の歴史を知ることが、今を知ることであり未来を知ることである。そして生きる道を知ることである。50周年という機会に、今一度みつめなおそう。

小林提樹先生の座右の銘は、「あの子は私である。この子も私である。どんなに障害は重くとも、みんな、その福祉を堅く守ってあげなければと、深く心に誓う。」である。
さあこの本を読んで、これから、その歴史をたどる旅に出かけよう。



購入お問い合わせ…大月書店
TEL: 03-3813-4651
FAX: 03-3813-4656
全国の書店でも購入できます。

お知らせ

●地域療育等支援事業のご案内

- ①外来療育等支援事業（療育相談）
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
①窓口：医療相談課 TEL042-374-2638(直)
- ②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象に、ご相談に応じます。
- ③訪問療育等支援事業
地域施設や家庭へ赴いて健康診査や介護指導などを行います。
②③窓口：地域連携情報室
TEL042-374-2101(直)
費用は…①②③とも無料です。

●島田療育センターはちおうじ

八王子小児・障害メディカルセンター内に4月に島田療育センターはちおうじが開施設しました。
〒193-0931 八王子市台町4丁目33番13号
TEL：042-634-8511（代表）
URL：http://www.shimada-ryoiku.or.jp/shima8



～50周年ロゴマーク～

今年島田療育センターは、50周年を迎えます。それを記念して、正面玄関前にある島田療育センターのシンボル・八重桜をモチーフにした記念ロゴがデザインされました。

～今後のイベント案内～

就学情報交換会

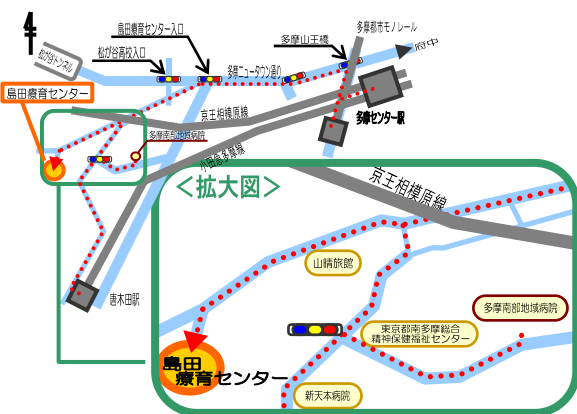
【ご案内】

- 日時：平成23年6月12日(日)
- 場所：島田療育センター 厚生棟 時間：AM10:00～12:45
- 参加費：一家族1,000円(当日、受付時にお支払いください)
- 【申し込み方法】
参加ご希望の方は当センターのホームページにある申込フォームよりお申し込みください。FAXでのお申し込みも受け付けております。申し込みの締め切りは6月6日(月)17:45までとさせていただきます。
※お問い合わせは地域連携情報室まで
TEL:042-374-2101 FAX:042-374-2089
※E-mailとURLは下記をご参照ください。

編集後記

桜も散り、新緑が綺麗な季節になりましたね。緑には緊張や目の疲れを和らげてくれる効果があります。新年度も始まり、ストレスや疲れが溜まっている方も多いのではないでしょうか？心と身体をリフレッシュしに、森林浴や散歩に出かけるのもいいかもしれませんね。(林)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部 地域連携情報室
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢 1-31-1
電話：042-374-2071(代表)
E-mail: info-room@shimada-ryoiku.or.jp
URL: http://www.shimada-ryoiku.or.jp



〈徒歩〉
多摩センター駅下車
→約20分

〈バス〉
多摩センター駅
バスターミナル12番
乗り場
「南部地域病院」行き
→約7分
終点「南部地域病院」
→下車 徒歩5分